

2008/10/13

ニュース

「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」(熊谷女子高)

平成20年度「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」(熊谷女子高)が行われました。

城西大学薬学部において、平成20年10月13日(月)に行われました、平成20年度「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」に熊谷女子高等学校の1、2年生の生徒さん45名と先生方4名が体験実習を行いました。

体験実習は、今年竣工したばかりの新薬学部棟(18号館)で、下記2テーマを午前と午後に分けて実施いたしました。それぞれのテーマの概要は以下のとおりです。

テーマ1. もっと薬剤師の仕事を知ろう-模擬薬局で薬剤業務を体験しよう-

薬剤師の主な仕事は、ただ単に処方された薬を患者さんに渡すことが調剤だと思われがちですが、その内容は、用途や患者の容態によって様々な対応が必要になります。例えば、処方箋の受付から調剤録の作成、調剤過誤を防ぐためにも、疑問点なく調剤を行うこと(疑義照会)、また調剤がきちんと執り行われているかどうかを確認すること(薬剤鑑査)が重要です。さらに、調剤の内容を患者に理解していただくことで、医薬品が正しく服用され効果が現れます。すなわち服薬指導、薬歴管理を行なうことによって、調剤過誤防止を防ぐことができます。このように薬剤師は、薬に関して、リスクマネジメントを行なっています。その他にも医薬品の供給や薬事衛生、学校薬剤師などの業務があります。医薬品を製造販売する為には薬剤師を置かなければならず、医師や歯科医師、獣医師など他の者が代わることは出来ません。その為、薬剤師は日本の医薬品供給に不可欠な存在と言えるでしょう。また、処方箋による調剤を行う薬局だけでなく、調剤を行わずに一般用医薬品のみを販売する一般販売業においても薬剤師を配置することが義務づけられています。

このように薬剤師の業務は多岐に渡ります。そのような薬剤師の仕事を本学の模擬薬局で実際に体験してもらいます。

テーマ2. 麻酔薬の効果を観察しよう

脳は多数の神経細胞の集合体です。外からの情報を計算し、判断して、身体の働き(運動、内臓の働きなど)をコントロールしている臓器です。したがって、脳の働きがうまくゆかなくなると、身体にいろいろな障害が起ってきます。全身麻酔薬は、一時的に、脳の働きを低下(意識の消失および無痛状態をおこす)させて、全身の機能を抑える目的で、おもに病院での手術の時に使用されています。

近代麻酔は、エーテルという揮発性の液体の薬物から始まりました。これを吸入することにより、外科手術が可能になり、多くの命が救われるようになりました(エーテルにはいくつかの欠



はじめに:薬学部長から



実習風景1(テーマ1)



実習風景2(テーマ1)



実習風景3(テーマ2)



実習風景4(テーマ2)

点があるため、現在は使用されていません)。一方、別の系統の全身麻酔薬に、静脈内注射で用いられるものがあります。今回の実験では、指導教員のもとで、マウス(実験動物)にこれらの全身麻酔薬を投与し、その効果を実際に観察します。そして、麻酔と麻酔薬について学習することを目的にしております。

体験実習終了後は、修了証を受け取り日程を終了しました。今回の体験を通じて、今後のために役立つ何かを得ていただけたら幸いです。また、機会がありましたら是非もう一度城西大学薬学部へお越しください。教員一同お待ちしております。



修了証書授与式の様子



お帰りの前に記念撮影

閉じる